

編成整備計画の沿革

第1期計画（昭和49～56年）

復帰後に沖縄振興開発との関連で策定された。

【内容】

1. 整備目標 . . . 本土水準
2. 高校進学率の目標値 . . . 95%
3. 学科の適正配置、進学率の地域間格差是正
4. 大規模校の縮小、普通科・職業科の生徒構成の適正化

（昭和51年に計画修正（計画期間：昭和51～56年））

1. 高校進学率の目標値 . . . 昭和54年までに94%、昭和56年までに96%
2. 適正規模化の推進
3. 新設校の学校規模 . . . 8～9学級
4. 普通科・職業科の適正な構成

第2期計画（昭和57～平成3年）

第1期計画を踏まえ、進学率、高校新設などの改善計画が策定された。

【第1期計画の進捗状況及び課題】

1. 昭和52年から56年まで進学率が上昇し、その後停滞
2. 昭和47～56年の学校設置数 . . . 11校
3. 昭和62年度の空き定員 . . . 790人
4. 増加する過卒入学者へ対応するための学科の新設・改編が課題
5. 大学進学志望者が増加し、進学準備の有利さから普通科志向が高まる
6. 中退者の増加

第2期計画の改定（昭和62～平成8年）

時代の要請に応えるため、新たに10年間の計画を策定。中卒者の推移と動向に基づく新たな編成整備を図ることを基本とした。

【見直しの要点】

1. 中卒者数減少による学校数、学科数、入学定員の見直し
2. 教育改革の動向や時代の変化への対応
3. 生徒・保護者・県民のニーズに応える改編・充実

第3期計画（平成8～13年）

科学技術の進歩や社会の変化、生徒・保護者・地域のニーズ等に対応し、生涯学習社会に向けた高校教育の推進、生徒数の推移に応じた学校の新設、学級数の増減計画、普通科・職業科・総合学科の割合、地域のバランスに配慮し、学科改編等を推進するため策定された。

【内容】

1. 那覇国際高校の新設（平成10年4月開校）
2. 読谷高校・普天間高校家政科の募集停止（平成8年）
3. 辺戸名高校に環境科を設置
4. 学級の増減（コザ高校11→12学級、北中城高校8→7学級、陽明高校8→6学級等）

第4期計画（平成14～23年）

基礎基本を踏まえ、「生きる力」を育むことを重視し、生徒の多様な個性や能力を伸ばす教育システムを主眼とした、生徒の視点に立った魅力ある学校づくりを推進するため策定された。

【内容】

1. 学校規模の適正化及び適正な学校配置の推進
2. 特色ある学校や新たなタイプの学校の設置
3. 学科バランスの改善（普通科：職業学科＝7：3 → 普：職：総合学科＝6：3：1へ）
4. 総合学科の設置（沖縄水産高校、陽明高校、嘉手納高校）
5. 総合実業高校の設置（名護商工高校（平成19年）、宮古総合実業高校（平成20年））
6. 情報技術高校の設置（美来工科高校・八重山商工高校の学科改編）
7. 中高一貫教育校の設置（本部高校・伊良部高校・久米島高校（連携型）、与勝高校（併設型））
8. 定時制・通信制課程の改編等（那覇工業高校定時制課程（平成22年再編統合）、宜野湾高校通信制（平成24年））

第5期計画（平成24～令和3年）

多様な学習スタイルに対応できる教育環境を整備し、生涯にわたる多様なキャリア形成に必要な能力や態度を育成することを目標に策定された。

【内容】

1. 名護高校に大学進学に特化した学科を設置（フロンティア科（平成27年））
2. 伊良部高校の閉校
3. 陽明高校学科改編（介護福祉科→総合学科（平成26年））
4. 真和志高校学科改編（介護福祉コース→みらい福祉科（平成29年））
5. 過大規模校の適正規模化（平成22年13校→令和2年9校）
6. 中高一貫教育校の新設（開邦中学校・球陽中学校（平成28年））